

わが事業所の安全活動について (3年連続無災害記録の達成から)

久々野営林署 牧原 清春 杉原 敏昭

わたしたちの事業所では、昭和49年5月24日以来今日まで、3年連続無災害(10万時間以上)の達成をみることができました。

これは、極めて危険度の高い生産事業に従事しているわたしたちにとって、何よりも替えがたい貴重な体験であり、事業所の宝でもあります。一重に当局の御指導の成果であり、心から感謝申し上げます。

この機会にわたしたち現場の、安全活動について御報告いたします。

1 久々野営林署の安全活動

署長の諮問機関である安全衛生委員会を中心にして、年間行事が実施されます。安全衛生活動の計画がたてられ、最重点実施事項、月別活動計画に基づいて、各現場、各担当者が実施し、毎月1回の安全衛生委員会で反省、検討され、このことが充実した活動のもととなっています。

2 野麦事業所の安全活動

当事業所が開設されたのは、昭和47年4月5日で、わたしはその日を忘れることができません。主任も、宿舎も、事業地も新しく、作業員も新しい年を迎えた気持で張切っていました。ところが、この入山日に災害が出たのです。今日の意義ある日に災害が出なくても……!と思うと残念でなりません。まさに畳の上でもけがをすることを、実感しました。

事業実行には、安全確保の対策は当然なことであります。わたしたちは当事業所の基本として、

「まず、自分のからだは自分で守ろう」

を合言葉に、災害絶滅の職場作りを取組んだのです。しかし、災害は減りませんでした。

昭和47年4月5日14時15分(138日休業)

昭和48年11月29日15時45分(132日休業)

昭和49年5月24日13時20分(197日休業)

このように、毎年1件の災害が発生しました。

こうした災害を振り返って、次のような反省点と、解決策を検討しました。

“なぜ、災害が起きるのか”

- (1) 署の安全活動に頼るのみでは、かけ声だけで終わってしまう点が多い。事業所の特徴を生かした安全活動がない。 _____安全活動の具体策。
- (2) 安全、仕事、に対する極端な偏向性がある。 _____生産目標の明確化と、納得した安全確保。
- (3) 安全活動の成果を確認する意識がない。 _____反省の場作り。

この3点の問題を解決するために、具体的に安全対策の定着に取組みました。その内容は次のとおりですが、特に、毎月1回の作業主任者会議では、事業の進行状況を検討しながら、作業班と事業所との意見交換を行い、事業所の目的が明確になりました。どうかすると、安全と仕事とは、裏腹の関係に考えがちでしたが、やはり、仕事に目標を持つことにより安全意識も高くなり、意識が高ければ仕事も順調にできる、両輪の関係にある意識が定着してきました。

又、主任から家庭へのたよりがありました。おやじの山の働きぶりを、かあちゃんに知らせてくれ、安全を家族と共に喜び合い、作業員の張合いとなっています。

活動内容

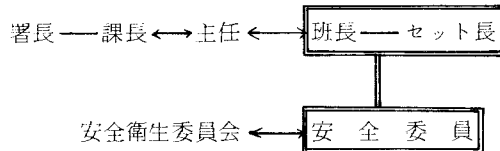
- (1) 安全当番の責任と自覚の強化。
「自分の当番の時は絶対災害を出さない」
ア 体操の指揮 イ 安全日誌 ウ 300事故チェック エ 安全旗の掲揚
- (2) TBM 安全懇談会、安全日の充実
「全員が納得する」
ア 安全の日(月1回) イ 懇談会 ウ 便り
- (3) 生産目標の明確化と理解
「1人1人が目標を持った、やりがいのある仕事」
ア 休暇者及びローテーションの全員周知
イ 毎月1回作業主任者会議 ウ 安全目標設定

さらに安全活動の例に、冬山安全体制の確立があります。セット増に伴い、生産事業に慣れていない作業員が多いので、安全確保には苦労が重なります。

活動内容

(4) 昭和51年度冬山安全活動

ア 報告、連絡の明確化



イ セット長会議（毎月）

問題点検討、委員の調整

ウ 悪天候時の活用

安全懇談会、スライドなど活用して技術研修、セット別検討会

3 班長の安全活動の心得（体験）

(1) 人員配置を適正に行う。

振動障害が近年多くなっている現状を見るに、この重要なことを強く感じます。ローテーションを基本に、適確に行っていますが、勇気のいることです。作業員の体調を把握して、無理のない配置を行う。

(2) 毎日作業条件が変わる。

わたしたちの職場は、毎日作業条件が変わりますので、安全確保には特効薬はありません。活動の報告の中で述べましたことを、地道に行うことは、もちろんですが、やはり、チームワークが大切であります。

(3) 私の現場で大切にしている、5つの大切。

- ア 相手の立場を大切にする。
- イ どんな意見も大切にする。
- ウ 仕事の誇り（目標）を大切にする。
- エ 知識（作業基準）を大切にする。
- オ 体験を大切にする。

以上で、報告を終わります。

反省を加えて、さらに無災害の職場作りに、邁進する所存でございます。このまとめが、安全確保の一助となれば、幸に存じます。

安全に終着駅はございません。皆様の御指導をよろしくお願い致します。